

表6-1 シンプロビジョニングに対応する主要ストレージ一覧

製品名／ベンダー名	概要	最大搭載 ディスク数	価格
Isilon IQ 12000x / アイシロン・システムズ	IQシリーズの最上位モデル。2Uサイズのラックマウント型で、1ノードあたりSATA II接続のディスクを12台まで搭載可能。最大96ノード、ディスク容量は1152TBまで拡張できる。ノードに障害が起きた場合、フェイルオーバー機能により、異なるノードに処理やデータを引き継げる	1152台	3800万円～
EMC Symmetrix V-Max SE / EMCジャパン	上位機「Symmetrix V-Max」は、最大8個の「V-Maxエンジン」を搭載することで、ディスクを2400台まで拡張できる。1個のエンジンを搭載し、拡張性を抑えたエントリー向けモデルが「Symmetrix V-Max SE」となる	360台	2980万円～
iStorage D8-30 / NEC	iStorage Dシリーズの最上位モデル。1ノードあたり384台のディスクを搭載し、最大4ノードまで拡張可能。別途ソフト「iStorage ThinProvisioning」を利用することで、シンプロビジョニングを実現する。複数のiStorageシリーズの稼働状況を把握したり、論理ディスクの性能を監視したりするソフトがある	1536台	598万5000円～ (税込)
Sun Storage 7210 / サン・マイクロシステムズ	3モデルあるSun Storage 7000シリーズのうち、「7410」と「7210」は、SSDを利用可能。SSDを含めた異なる種類のディスクをまとめて「階層型ストレージ」として利用できる	48台	595万2450円～ (税込)
3PAR InServストレージ・サーバ T800 / 3PAR	「T800」はコントローラを8個搭載する上位モデル。ほかにコントローラを2個搭載する「E200」、4個搭載の「T400」もある。独自アーキテクチャにより管理するディスクを256MB単位に分割し、並列でデータを書き込める	1280台	3887万円～
Dell EqualLogic PS6000S iSCSI アレイ / デル	5モデルあるEqualLogic PS6000シリーズの中で唯一のSSD搭載モデル。PSシリーズ共通の管理ソフトにより、RAIDの自動構築やシステムを監視することが可能。スナップショットやレプリケーション機能を利用できるソフトが付属する	16台	423万8850円 (税込)
ArrayFort AF7500 / 東芝ソリューション	7モデルあるArrayFort AFシリーズの最上位モデル。7500は1ノードあたり12台のディスクを搭載でき、最大432台まで拡張可能。シリーズ専用ソフト「ArrayFort ESA」があり、レプリケーションやシステム監視などが利用できる	432台	922万5300円～ (税込)
IBM XIV Storage System / 日本IBM	最大で15個のプロセッサと180台のディスクを搭載する。瞬時にスナップショットを作成する機能を備える。差分だけ取得することで最大1万6000世代のバックアップを作成できる	180台	6411万4050円 (税込)
HP StorageWorks EVA8400 / 日本HP	3モデルあるEVAシリーズの最上位モデル。ディスクの種類が混在する環境では、データの種類のに応じて階層管理が可能。スナップショット機能は64世代前までさかのぼってリカバリできる	324台	1737万7500円～ (税込)
SGL InfiniteStorage 15000 / 日本SGL	SGL InfiniteStorageシリーズ最上位モデル。4Uの筐体に60台のディスクを搭載でき、1システム(2ラック構成)で最大1200台(1.2PB)のディスクを搭載する。MAID機能により、アクセスのないディスクを停止して消費電力を低減できる	1200台	5400万円～
SANARENA 6800 / 日本ユニシス	メモリーの搭載容量は最大で256GBで、独自技術によりメモリーの転送速度を引き上げられる。プロビジョニングやディザスタリカバリ、ストレージ仮想化などの専用ソフトを提供する	1152台	7500万円～
FAS6080 / ネットアップ	6000シリーズとして「FAS6080」のほか、ディスク搭載台数が840台となる「FAS6040」もある。負荷を抑えたスナップショット機能を備え、1日に数回のバックアップファイルを作成できる	1176台	3628万2267円～ (税込)
Hitachi Universal Storage Platform VM / 日立製作所	エンタープライズ向け製品で、「VM」のほかに上位モデルとなる「Vシリーズ」もある。Vシリーズは最大1152台のディスクを搭載でき、うち128台まではSSDを利用可能。異なる種類のストレージを管理し、共通プールとして論理ディスクを提供できる	240台	4887万9600円 (税込)
ETERNUS4000 (モデル600) / 富士通	SANやNAS、ネットワーク機器やソフトなどを含むストレージシリーズ。ミッドレンジ向けとなる「4000」のほか、エントリー向け「2000」、大規模向け「8000」がある。ディスクの二重故障を防ぐRAID6や、データを暗号化して情報漏えいを防ぐ機能などを備える	420台	1240万500円～ (税込)